



# ネイチャーセンターだより

2021年11・12月号

## 新・いきもの図鑑



写真：大きなツノのある秋のエゾシカのオス

## エゾシカ（シカ科）

エゾシカは、日本では北海道のみで見られ、森と草原が入りまじる環境に生息しています。ネイチャーセンターの周辺では1年中見られ、春国岱の草原で100頭以上の群を観察することもあります。秋にオスは、「フィーヨー」と大きな声で鳴きます。これはメスに自分をアピールし、他のオスをけん制するためです。オスは、複数のメスを囲いこんでハレムを作り、交尾をしたあとメスの群を離れます。メスは6月ごろに出産します。オスの子どもは1歳～2歳で親の群を離れますが、メスは残ります。

北海道では、一時絶滅寸前まで数が減りましたが、戦後の保護政策などによって1980年代以降爆発的に増加しました。現在は、増えすぎたシカによる農林業や希少な植物への影響が出ています。

【参考文献】梶光一、1995、シカの爆発的増加—北海道の事例—。哺乳類科学 35(1):35-43。  
三浦慎吾、1994、日本の哺乳類改訂2版。東海大学出版、神奈川。  
南正人、1996、日本動物大百科第2巻鳥類II。平凡社、東京。

## 10月下旬のオオハクチョウ

NEWS

今年もオオハクチョウが風蓮湖・温根沼に帰ってきました。渡りの疲れを癒すように水底に生えるアマモを食べたり、湖岸で休んだりして過ごしています。10月から12月頃までよく観察でき、湖が結氷すると本州等へ南下していきます。

10月24日、当センターが毎秋4回行っている風蓮湖・温根沼のオオハクチョウ個体数調査を実施し、1,396羽（成鳥1,244羽、幼鳥152羽）を記録しました。同時期の過去5年（2016年～2020年）の平均は、919.8羽なので、今年は400羽ほど多い記録となりました。

多かった原因は分かりませんが、今年の初認（シーズン最初に記録した日）が10月5日と例年よりも3日早かったことから、今年は全体的に渡来が早い可能性があり、そのせいかもしれません。2～4回目の調査結果を比べてみたいと思います。



写真 オオハクチョウの家族

2021年10月24日 温根沼で撮影

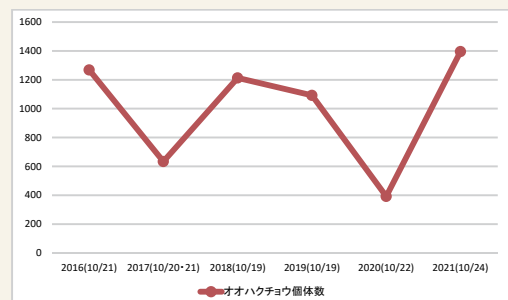
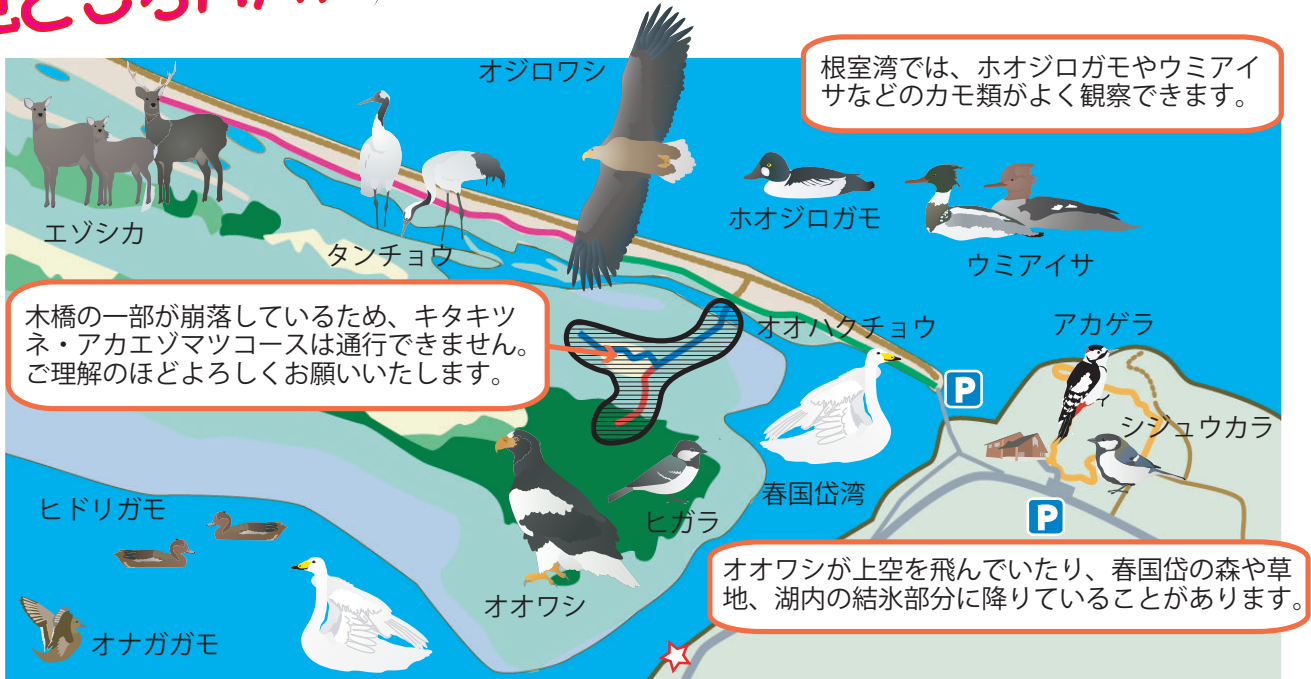


図. 2016年～2021年10月下旬のオオハクチョウの個体数

# 見どころMAP



根室湾では、ホオジロガモやウミアイサなどのカモ類がよく観察できます。

木橋の一部が崩落しているため、キタキツネ・アカエゾマツコースは通行できません。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

オオワシが上空を飛んでいたたり、春国岱の森や草地、湖内の結氷部分に降りていることがあります。

- 観察路(ヒバリコース1.2km、約25分)
- 観察路(ハマナスコース1.4km、約30分)
- 観察路(キタキツネコース0.8km、約20分)
- 観察路(アカエゾマツコース0.5km、約15分)
- 観察路(小鳥の小道1.4km、約30分)
- 作業路(春国岱上は車両進入禁止)
- 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(入館無料)
- ☆ 東梅野鳥観察舎(東梅ハイド)

<キタキツネ・アカエゾマツコースの補修の予定は、分かりしだいネイチャーセンターだよりやホームページ、Facebookでお知らせします。>  
 <東梅ハイドからは、対岸の春国岱の森林の鳥や周囲の草原の鳥が観察できます。>

## 11・12月の見どころ予報

- 凡例
- ◎ ぜったい見られる (と思う)
  - ちょっと気をつければ見られる
  - + よく気をつければ見られる
  - ・ めったに見られない

オジロワシ オオワシ	11月	+	立枯木や消波ブロックの上、砂丘の上にとまっていることが多く、カモの群をおそっているのを見ることもある。12月になると、観察する機会が増えてくる。
	12月	○	
タンチョウ	11月	○	春国岱周辺の湿地や干潟などで見られる。今年生まれの幼鳥は、頭から首にかけて茶色っぽい。12月に入ると釧路湿原に移動するものが増える。
	12月	+	
オオハクチョウ	11月	◎	例年、最も数が多くなる11月上旬～中旬には、風蓮湖・温根沼全体で約1,000羽が観察できる。厳冬期、多くは本州へ移動し、根室では少数のみが越冬する。
	12月	○	
カモ類	11月	○	11月、春国岱湾では、2,000羽を超えるカモ類が観察できる。12月は、多くの種類が南へ渡っていくため、数が減っていくが、根室湾では、クロガモやウミアイサ、ホオジロガモなどの海ガモ類がよく見られるようになる。
	12月	+	
カモメ類	11月	◎	シロカモメとオオセグロカモメがよく観察できる。ウミネコやユリカモメは、南へ渡っていくため見る機会が減る。少数だがワシカモメが観察できる。
	12月	○	
春国岱	野鳥(森)	運が良いと、クマガラの鳴き声が聞けたり、森の上を飛ぶ姿が見られる。	
	けもの	エゾシカ、キタキツネが見られる。	
自然学習林	野鳥	ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、キツツキ類(アカゲラ・コゲラ・オオアカゲラ)が見られる。	
	けもの	エゾシカ、キタキツネが見られる。稀にエゾリスが見られることもある。	

# 「高病原性鳥インフルエンザ」今年も注意が必要です

トピックス

11月11日、環境省は、高病原性鳥インフルエンザについての調査対応レベルを、レベル3（警戒度最大）に引き上げました。これは、秋田県横手市、鹿児島県出水市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生したことを受けてのもので、また、韓国で10月末から家禽や野鳥からの発生発見が続いていることも考慮されています。今年も、注意が必要です。

秋から冬にかけて、春国岱などの野鳥の多い水辺で野鳥観察をする場合は、昨年同様、次のことに注意してください。

1. 生きていた野鳥や野鳥の死体には、素手でさわらない。
2. 野鳥のフンや羽毛をできるだけふまない、さわらないようにする。もしさわった場合は、流水とせっけんで手をよく洗い、うがいをする。
3. 野外観察の後は、くつの底や車のタイヤをしっかりと洗い、アルコールやうすめた塩素系の漂白剤などで消毒する。帰りに動物園や農場には立ち寄らない。（ネイチャーセンターでは、玄関に靴底用の消毒マットを設置していますのでご利用ください。）
4. 弱った野鳥や死んだ鳥を見つけた場合は、できれば、根室振興局に場所や状況を知らせる（電話 0153-23-6823）。

高病原性鳥インフルエンザは、昨年度はコロナの陰で猛威を振るい、国内では関東以西の18県で52件のニワトリ等の家禽の感染が発生し、病気が広がるのを防ぐために987万羽もの家禽の殺処分が行われました。野鳥も18道県で31例の感染が発見されています。道内では、ハヤブサ、オジロワシ各1羽の死体からウイルスが見つかり、北日本では他にもオオハクチョウ4羽からもウイルスが見つっています。

「鳥インフルエンザ」は、基本的に鳥どうし（主にカモ類）に流行する病気で、この中でニワトリにうつると重い症状になり死ぬこともある特殊なタイプを、「高病原性」と呼びます。10月に旭川市で見つかったマガモの死体から出たウイルスは、高病原性ではない鳥インフルエンザのものでした。

高病原性鳥インフルエンザは、通常の野鳥観察で野鳥から人にうつったり、また加熱された鶏肉や卵を食べることで人にうつったりする病気ではありません。しかし、ニワトリを飼育している農場にこのウイルスが入ると、ニワトリが多数死んでしまう他、病気が広がるのを防ぐ目的で同じ農場内のニワトリを殺処分する必要があり、経済的な影響が大きいのです。

ですから、ウイルスが含まれている鳥のフンや羽毛を踏んだ人や車が、農場にウイルスを運んでしまうといったことは、絶対に避けなければいけません。ニワトリだけではなく、家庭や動物園で飼われている鳥に病気がうつるおそれもあります。冒頭の注意点を気に留めていただければと思います。

なお高病原性鳥インフルエンザは、人が大量に鳥を飼うことにより、鳥インフルエンザの毒性を強めてしまった結果、生まれた病気である、と考えられています。（文責：チーフレンジャー 古南幸弘）

## 春国岱でオオワシを初認

NEWS

今年も春国岱にオオワシが帰ってきました。11月12日、春国岱の海岸沿いにある消波ブロックの上にオオワシ成鳥1羽がとまっているのをレンジャーの古南幸弘が確認しました。オオワシは、9時～12時まで同じ場所にとまって休んでいました。長い距離を移動して疲れていたのでしょうか。

過去5年の春国岱・東梅自然学習林周辺でのオオワシの初認は、以下のとおりです。

2020年11月8日 東梅自然学習林、 2019年11月21日 根室湾、 2018年11月2日 春国岱、  
2017年11月1日 春国岱、 2016年11月4日 春国岱

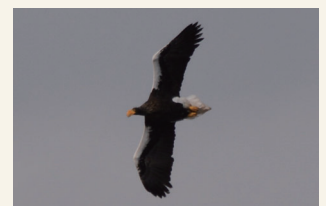


写真 オオワシ成鳥  
2021年11月14日 風蓮湖で撮影

11月は目にする機会が少ないですが、これから数が増えてゆき、1月～2月には風蓮湖・温根沼で500羽以上のオオワシが見られます。

## 春国岱ネイチャーセンターのイベント情報

### ●行事参加者募集！

◆**小鳥の小道バードウォッチング**：東梅自然学習林内を散策し、森やその周辺に生息する野鳥を観察します。

- ・開催日時：2021年11月28日（日）午前9時00分～12時00分（雨天時は、12月5日（日）に順延。）
- ・集合／解散場所：根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター
- ・対象：バードウォッチングに興味のある小学生～大人（17歳以下の方は保護者同伴・または保護者の方に参加申込確認書にご署名いただけること） ・定員：20人（先着順、11月26日（金）17時まで） ・参加費：100円（保険代）

◆**フィールド講座「日本のラムサール条約湿地めぐり」**

フィールド講座は、ラムサール条約湿地「風蓮湖・春国岱」の自然や生き物について専門家からお話を聞き、地域の自然について市民の理解を深め、考えるきっかけを作る目的で実施しています。

今回のテーマは、ラムサール条約湿地について。公益財団法人日本野鳥の会は日本各地のラムサール条約湿地の登録や保全に関わっていますが、その中で4ヶ所の様々な湿地に携わった経験を持つ大畑孝二さんから、それぞれの湿地の特徴・魅力や、保全活動についてお話を聞きます。ご紹介するのは、ウトナイ湖（苫小牧市）、東海丘陵湧水湿地群（愛知県豊田市）、葛西海浜公園（東京都）、片野鴨池（石川県加賀市）です。

- ・開催日時：2021年12月11日（土）午後6時00分～8時00分 ・会場：根室市総合文化会館視聴覚室
- ・対象：小学校中学年～大人 ・定員：30人（先着順、12月8日（木）17時まで） ・参加費：無料 ・持ち物：筆記用具

### ◆行事の申込方法

- ・電話、メールまたは直接来館により、下記必要事項を根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンターへ。
- ・必要事項：参加者全員の氏名・連絡先・17歳以下の方は年齢も ・Tel：0153-25-3047 E-mail：nemu\_nc@marimo.or.jp

★新型コロナウイルス感染症の感染防止に十分な対策をした上で実施いたします。新型コロナウイルス感染症等の状況により、中止する場合がありますのであらかじめご了承ください



募集中！

### ボランティア「スंक」

春国岱ネイチャーセンターでは、ボランティアグループ「スंक」で活動して下さるメンバーを常時募集しています。「スंक」は、ネイチャーセンター周辺の自然を自らが楽しみ、環境保全について学び行動することを目的としています。月に1回、ミーティングを行い（基本的に最終火曜日）、自然学習林の樹名板を作ったり、イベントを企画・実施したりしています。

熱いながらもゆるい楽しい集まりです。ご興味のある方はネイチャーセンターまでお問合せください。

- ◆対象：18歳以上
- ◆年会費（ボランティア保険料含む）：1,000円

### フィールドマナーを守って

自然や生きものが安心して暮らせるように…

- 春国岱の駐車場から奥は、一般車両の乗り入れは法律で禁止されています
- 観察路からはずれないようにしてください
- 動植物の採取や捕獲はしないでください
- ゴミはお持ち帰りください
- 所定の場所での喫煙にご協力ください
- キタキツネやエゾシカ、野鳥など野生動物の生息地です。またマダニも多く生息しています。ペットを持ち込んだり、放したりすることはご遠慮ください



根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター（入館無料）

〒086-0074 北海道根室市東梅 103 番地

TEL. 0153-25-3047 FAX. 0153-25-8570

E-mail. nemu\_nc@marimo.or.jp

HP. [http://www.marimo.or.jp/~nemu\\_nc/workn/index.html](http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html)

Face Book. <https://www.facebook.com/shunkunitai/>

◆休館日：（開館時間 9：00～16：30）

11月4・5・10・17・24・25日 12月1・8・15・22・29・30・31日

◆団体でご利用の方へ（事前予約制）

自然観察の案内や室内でのレクチャーなどのプログラムをご利用いただけます。



ラムサール条約湿地

風蓮湖・春国岱

2005年11月登録